

那須地域の利用の現況

I 那須高原の観光利用

I-1. 主要アクセスルート

那須高原（ここでは東北自動車道より北西側、那須ロープウェイ山麓駅付近までの地域をいう。以下同様）への主要アクセスルートは、東北自動車道那須インター経由（マイカー）であり、そのほか東北新幹線那須塩原駅経由（レンタカー）、那須甲子有料道路経由（福島方面より）のアクセスもみられる。既存資料やヒアリングより、観光客の大半は首都圏からの来訪であると考えられ、家族連れの個人旅行が多い傾向がある。

自動車でのアクセスにはほぼ限定されるため、ハイシーズンには深刻な交通渋滞が生じている。

I-2. 観光客数の推移

那須町の年間観光客数は、昭和 56 年に約 300 万人であったが、バブル経済崩壊後も漸増し続け、平成 8 年にピークの約 540 万人を記録した。増加要因としては、東北新幹線開通（昭和 57 年）、那須山麓有料道路の有料解除（平成 3 年）、東北新幹線「なすの」誕生（平成 7 年）等が考えられる。

平成 8 年以降は減少に転じて平成 12 年には約 485 万人となったが、近年は 480 万人台でほぼ横這いを続けており、平成 18 年は約 489 万人となっている。

なお、那須町のレジャー施設や温泉等の利用施設は、そのほとんどが那須高原に集中して分布していることから、那須高原への観光客数は那須町全体の観光客数とほぼ同数として扱う。

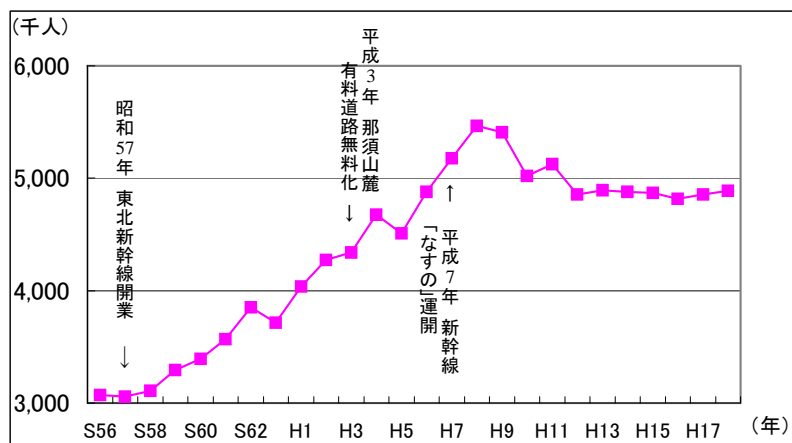


図 1 那須町の観光客数の推移¹

¹ 那須町観光商工課より。東北自動車道、那須高原有料道路及び那須甲子有料道路の通行車両台数に月毎の係数（月毎の1台あたりの乗車人数、観光客の割合）を掛けて算出。

I-3. 観光客の季節変動

那須町への観光客数の月別推移を見ると、雪が解ける4月から樹木が落葉する11月までが行楽シーズンであり、中でも5～6月の新緑・ツツジ、8月の避暑・夏休み、10月の紅葉の時期に集中する傾向にある。一方、12月～3月の冬季は路面が凍結するため一般観光利用は限られ、スキー場利用が主体となり利用者数も少ない²。

国立公園那須地域への観光客の入り込みも、那須町全体と同様に5～6月、8月、10月がハイシーズンとなっているが、ピークがより明確であり、ハイシーズンへの集中が顕著である。

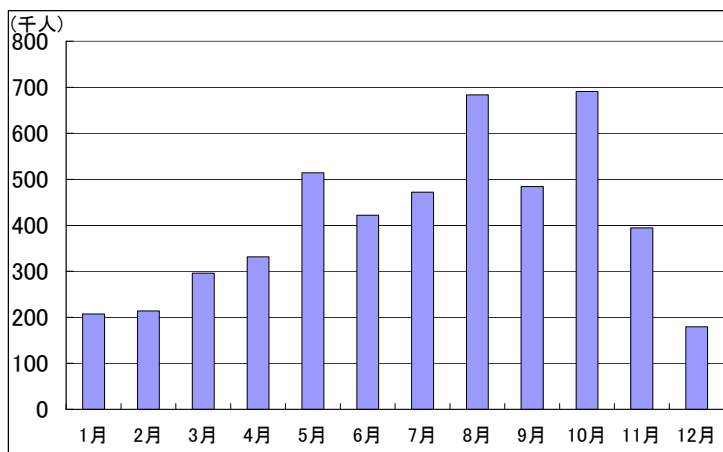


図2 那須町の月別観光客数³ (平成18年)

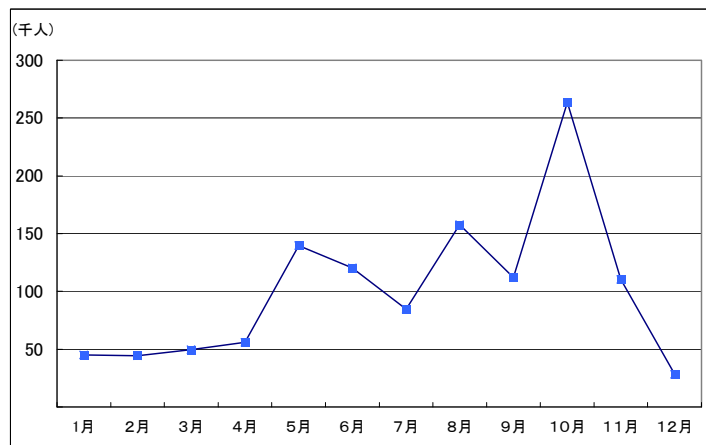


図3 日光国立公園那須地域の月別観光客数⁴ (平成18年)

² 那須町観光協会、那須温泉旅館協同組合ヒアリングより。

³ 那須町観光商工課より。東北自動車道、那須高原有料道路及び那須甲子有料道路の通行車両台数に係数（月毎の1台あたりの乗車人数、観光客の割合）を掛けて算出。

⁴ 那須町観光商工課より。那須高原有料道路、那須甲子有料道路の通行車両台数に係数（月毎の1台あたりの乗車人数、観光客の割合）を掛けて算出。

I - 4 . 観光施設

①那須高原の主な観光施設

那須高原の観光施設としては、東北自動車道から那須高原有料道路入口にかけての那須山麓一帯に、動物園、牧場、遊園地等の大型レジャー施設が点在しているほか、美術館・博物館、ペンション等、各種の観光施設が数多く立地している。

表 1 那須町内の観光施設数（平成 19 年 4 月 1 日現在）

名称	施設数
旅館・ホテル	56
民宿	25
ペンション	141
寮・保養所	61
貸別荘・ロッジ・コテージ	20
キャンプ場	15
国民休暇村	1
ゴルフ場	9
スキー場	2
大型レジャー施設	8
美術館・博物館	29
別荘	9,134

これらのうち、動物園、遊園地、博物館などの有料レジャー施設⁵の利用者数は約 305 万人、那須町全体の観光客数の 62%を占めており（平成 18 年）、那須高原の来訪者の多くがこうした有料施設をスポット的に利用している。一方で、これら有料レジャー施設利用者の町全体の観光客数に対する割合は近年減少しており、利用形態が多様化していることが伺える。

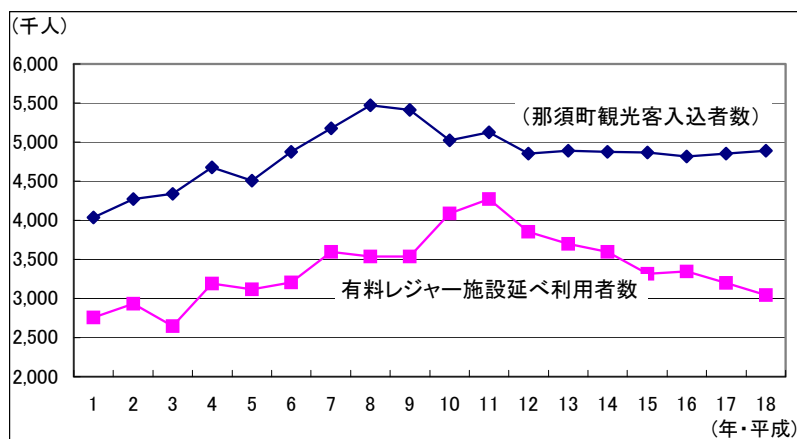


図 4 那須町の有料レジャー施設延べ入場者数

⁵ 那須どうぶつ王国、那須サファリパークなど町内の主要 29 施設。

②温泉利用

那須町には、那須温泉（那須湯本地区）を始めとする全国的に著名な温泉が多くあり、そのほとんどが日光国立公園那須地域内に位置している。温泉の利用者数は約 164 万人、那須町全体の観光客数の 34%を占めており（平成 18 年）、那須高原の重要な観光資源となっている。近年の温泉ブームもあって若年層から中高年層まで幅広い年齢層が利用している。

また、温泉利用者のうち、宿泊する来訪者の割合は 77%（平成 18 年）となっている。

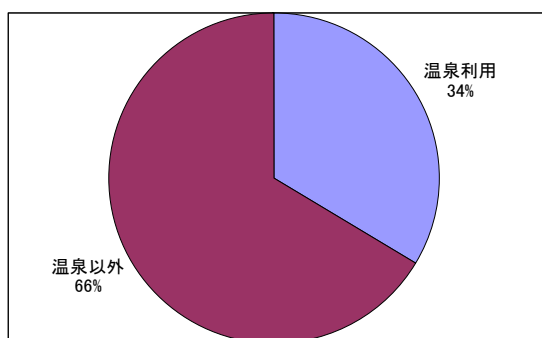


図5 那須町全体の観光客数に対する温泉利用者数の割合（平成 18 年）

③ロープウェイ・ドライブウェイ、スキー場

基盤的観光施設としては、那須高原と茶臼岳の頂上付近を結ぶ那須ロープウェイ（年間利用者 49.2 万人、平成 18 年）、那須湯本からロープウェイを結ぶ那須高原有料道路、及び八幡温泉から山麓を横断する那須甲子有料道路が挙げられる。

また、2 箇所のスキー場があり、冬季の利用の中心となっている（年間合計利用者 21.1 万人、平成 18 年）。

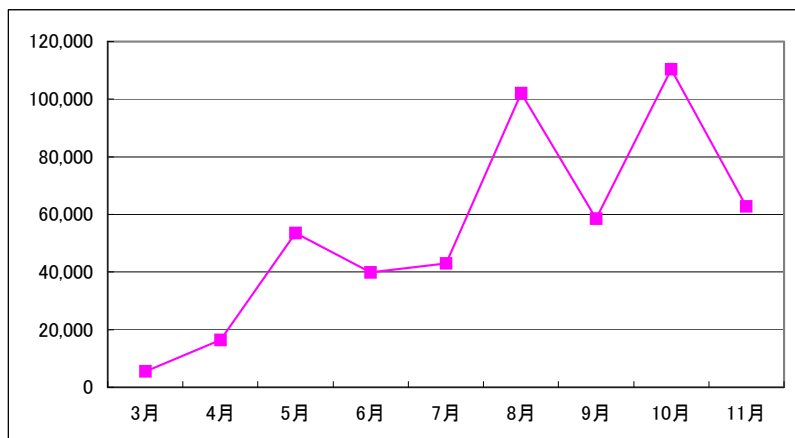


図6 那須ロープウェイ利用者数の推移（平成 18 年、12～2 月は休業）

④野外教育施設

日光国立公園那須地域内及び周辺には、栃木県立なす高原自然の家や国立那須甲子少年自然の家那須ロッジ等の野外教育施設が点在している。これらの施設で実施しているプログラムには、登山や自然観察など、指導者による環境学習プログラムが含まれている。

表 野外教育施設の年間利用者数（平成 18 年）

施設名称	利用者数
国立那須甲子少年自然の家那須ロッジ	約1,800人
栃木県立なす高原自然の家	約14,700人
那須町立野外活動センター	約500人

⑤案内・情報提供施設

那須湯本地区には、那須高原観光案内所が設置されている。

自然解説や自然ガイド機能に関しては、自然研究路やつつじ園地の探勝路沿いに解説板が整備されているが、拠点施設は未整備である。

I - 5. 那須高原の来訪者の主な利用対象

以上から、那須高原を訪れる観光客の利用対象には、以下のような傾向が見られることがわかる。※カッコ内は平成 18 年のデータ

約 60%が、有料レジャー施設を利用	(約 305 万人)
約 33%が、温泉を利用	(約 164 万人)
約 25%が、日光国立公園那須地域を利用	(約 121 万人 ⁶)
約 10%が、那須ロープウェイを利用	(約 49 万人)
約 4%が、スキー場を利用	(約 21 万人)

⁶ 那須町観光商工課より。那須高原有料道路、那須甲子有料道路の通行車両台数に係数（月毎の 1 台あたりの乗車人数、観光客の割合）を掛けて算出。

Ⅱ. 日光国立公園那須地域における利用の現状と課題

○課題 1：魅力ある自然とのふれあいの場の確保

近年の自然志向の高まりとともに、全国的に自然とのふれあいの機会や場所の創出が求められている。那須高原においては、那須連山の雄大な景観や冷涼な高原気候に恵まれ、首都圏から年間約 490 万人の入込者があるものの、現状では大型レジャー施設等のスポット的利用が主体であり、気軽に自然とふれあえる場所は少ない。

多様な利用層に対して、自然に直にふれあい、より深い自然体験を得られる場の創出に対するニーズは高いと考えられる。

○課題 2：自然とのふれあいを促進する情報提供の充実

日光国立公園那須地域及び周辺地域には、著名な温泉を始め、那須連山の登山・トレッキングの拠点となる那須ロープウェイ、殺生石園地や八幡ツツジ園地といった利用スポットが多数存在し、それぞれ利用されているが、来訪者にこれら自然資源への理解や関心を深め、自然とのふれあいを促進するための情報提供は十分とはいえない。

日光国立公園那須地域及び周辺地域の自然資源の利用情報や自然とのふれあい施設・プログラム等について、総合的に情報発信する拠点施設のニーズは高いと考えられる。

○課題 3：日光国立公園那須地域内の連携促進

日光国立公園那須地域及び周辺地域には、温泉旅館やホテル、野営場等の宿泊施設、野外教育施設等が点在しているが、これらの施設間の連携によって地域内の魅力アップを図ろうとする動きは少ない。

施設間の連携を推進し、国立公園内の施設を有機的につなげる利用を進めていくニーズは高い。

○課題 4：利用の集中による交通渋滞の緩和

日光国立公園那須地域及び周辺地域では、ツツジ・新緑、夏休み及び紅葉期のハイシーズンに多数の観光客が集中し、深刻な交通渋滞が生じている。

ハイシーズン以外の季節における多様で魅力的なプログラムの提供などにより、利用の分散を図っていくニーズがある。